

沖縄県恩納村 視察研修記

菊池久美子

早朝、深寒い原村からバスと飛行機と
乗り継ぎ、視察地沖縄県恩納村をめぐらした。
飛行機に乗るのは何年ぶりだろうか
機内では視察地への話がはずみ楽し
そうこうしてると眼下には
沖縄のオリシマンブルーが近づいてきた。
空港に下り外に出るとそれはまばゆい青空と
やさしい空気が私達一行を迎へてくれました。

昼食後、バスの車窓からの景色に
目をうばわれながら恩納村へとむかう。
資料によれば恩納村は沖縄本島のほぼ中央部
西海岸に位置し、サンゴ礁の広がる
美しい海岸線のリゾート地です。
人口一〇八七七人、観光、水産、農業を
主産業としている。特産品はパッションフル
ーツ、もずく、海ぶどう、琉球泡盛、沖縄
小菊等の花卉、観葉植物等々
いうまでもなく沖縄らしい観光名所多数有り

まもなくーリゾート感あふれた恩納村役場の玄関へのアプローチが目にとびこんできた。担当の大城さんに案内され二階の会場へとむかう途中なんと川上村との友交のシンボル川上犬が元気にはしゃいでいました。ここで恩納村と長野県の川上村との関係をお話ししたいと思います。

資料によると川上村と恩納村とのつながりはレタス栽培なのです。これまで恩納村ではレタス栽培には取り組んでいませんでした。

ところが川上村との農業技術交流によって本格的なレタス栽培を始めました。

この取り組みをシンカプロジェクト
「シンカとは沖縄の方言で仲間を意味する」と言い川上村の農業者の栽培技術の応援を

うけながら自治体交流を目指している。

平成27年度からプロジェクトが始まり、冬の温暖な気候を利用して翌年度から出荷して

村内のリゾートホテルや観光客の皆さんに地元産の安心安全な野菜を提供している。

現在生産しているレタスはラポトルと言って甘みのあるやゆらかめの舌ざわりとのこと。地域で需要の多い生鮮野菜などの高付加価値品目への転換を図り、農業を活性化し、遊休農地の有効活用と若者の農業への就農に期待していく事が大きな課題のようです。その他にも大きな問題に苦慮している。冬になると夕夕ウィンシロカミラという鳥の食害やぶんなど悩まされ、防鳥ネットを設置しても強風で飛ばれ、また海風によって塩害にもあっている様子です。

それにもましてレタス農家の高齢化にもない生産量が安定しない事が事実だそうです。それでも担当者の方々の応援もあってなんと出荷量も増えつつあるようです。

会場でお話を聞いたあと私達一行は、担当の方からレタス畑へと案内されました。水はけがよすぎる土地の為、山から引いてくるかん水設備が必須であり、原村でレタスの栽培における土地とのちがいを実感した。

こたびの研修で、新しい発見があったり
またいろいろな難しさを感じながらも
がんばっている姿に感心しながら
沖縄県 恩納村とあとにしました。

この研修は私にとってとても充実し
大切なふれあいを感じる事ができました。
そしてここからの仕事等について
勉強になりました。

この視察研修において
企画としてくださった方々
気くばりの感じる準備とお世話として
くださった幹事の皆様、
写真におさめてくださいました方
そして同行していただきました
すべての仲間の皆様から
ありがとうございました。